

学びのイノベーション事業 授業実践報告 様式

学校名：城東中学校

授業の概要	
授業日時・学年・教科・単元名等	
授業日時：平成24年 6月	
学年： 1年 1組	教科：英語科
単元名：Unit 4 楽しい昼休み Part 2 好きな教科を尋ねよう（第1次）	
ICT支援員によるサポート <input type="checkbox"/> 授業中 <input checked="" type="checkbox"/> 事前	
単元・題材の目標	
1 “What～?” を用いてグループ活動やインタビュー活動に積極的に取り組む。	
2 “What～?” を用いて相手の好きな教科等について尋ねること、質問に答えることができる。	
3 “What～?” の表現が含まれた本文の内容を聞いたり、読んだりして理解できる。	
単元全体の流れ	
Unit1・2ではbe動詞、一般動詞を扱っており、生徒はコミュニケーションの基本となるYes/Noで受け答えることができるようになっているが、内容に豊かさや深まりは求めることができなかった。しかし、“What”という疑問詞を用いることによって、会話の幅が広がることが期待できる。 「折り紙」「好きな教科」「朝食」等のトピックは日本の文化についても触れたり考えたりするきっかけとなるだろう。教科書のモデル対話をお手本として、積極的にペアやグループで会話ができるように指導していきたい。	
本時の中心となる授業形態	
<input type="checkbox"/> 一斉学習 <input checked="" type="checkbox"/> 個別学習 <input type="checkbox"/> 協働学習	
本時の目標（評価の観点）	
“What’s your favorite ～?”を用いたインタビューを積極的にしようとする “What’s your favorite ～?”に対する答えを聞いてその内容を理解できる	
情報通信技術の活用	
活用した場面	
<input checked="" type="checkbox"/> 導入 <input type="checkbox"/> 展開 <input type="checkbox"/> まとめ <input type="checkbox"/> その他（ ）	
活用した者	
<input type="checkbox"/> 教員 <input type="checkbox"/> 生徒	
活用する目的	
<input type="checkbox"/> 課題の提示 <input type="checkbox"/> 動機付け <input type="checkbox"/> 興味・関心の創出 <input type="checkbox"/> 目的や目当ての明確化	
<input type="checkbox"/> 教員の説明 <input type="checkbox"/> 生徒による説明	
<input checked="" type="checkbox"/> 繰り返しによる定着 <input type="checkbox"/> 典型例の提示 <input type="checkbox"/> 創作活動	
<input type="checkbox"/> 失敗例の振り返り <input type="checkbox"/> 体験の想起 <input type="checkbox"/> 体験の代行 <input type="checkbox"/> 比較	
<input type="checkbox"/> 振り返り <input type="checkbox"/> 生徒同士の教え合い <input type="checkbox"/> その他（ ）	
活用したコンテンツ	
デジタル教材	
活用した機器	
<input type="checkbox"/> IWB <input type="checkbox"/> タブレットPC <input type="checkbox"/> 実物投影機	

□ その他 ()

※情報通信技術の活用のうち、本時におけるポイントとなる活用について主なものを回答すること。

1. 本時の展開

学習の流れと子どもの活動	指導・支援のポイント	使用した機器やコンテンツ
教科書の本文を音読して、内容を理解する。		
1 Part 2 好きな教科を 尋ねようの本文をデジタル 教科書のピクチャーを見な がら聞く。		電子黒板
2 コーラスリーディングや チャンクリーディングで内 容の確認をする。		タブレットPC
3 各自でシャドーイングを する	シャドーイング、教科書の () 抜き等の生徒の暗記を 助ける教材を準備する	
4 ペア同志やグループで音 読ができているか確認する	何度も教科書のリスニングが 確認できるようにする	
4 ペアになり、5分で本文を 暗記する。		
5 「なりきり英会話」をする	スピードや自然な会話になっ ているかを確認する	
6 発表会をする		

<協働学習の実施状況>

- 生徒が相互に教え合う場面があった 数名が一緒に学び合う場面があった
 数名が協力したり助け合ったりする場面があった 数名が話し合う場面があった
 一人が発表したことについて学級全体で考える場面があった
 同じ問題について、学級全体で話し合う場面があった
 ネットワークを使って遠隔地と結んで学ぶ場面があった

2. 情報通信技術の活用のねらいと効果

(1) 活用のねらい

個々の生徒で、デジタル教材、教科書の音声を活用し自分の音声と比較できる。

(2) 活用により期待される効果

繰り返し聞くことで、正確な音声が入ること。

3. 実践上の課題

自分の音声を録音でき、オリジナルと比較ができるとよい。
自分の音声及びオリジナルの音声の音声波形で比較ができるとよい。

※本報告は、2頁を超えて作成しても構わない。

※本報告とあわせて、授業の動画や写真を提出する際は、Webでの公開など広く使用されることも考えられることから、保護者の了解を得るなど必要な対応を行うこと。